

近代植物辞書 牧野富太郎編 『牧日本植物図鑑』

萩原 義雄

はじめに

「[高知県立牧野植物園](http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2001makino/mokamoto.html)」ってご存知でしょうか。ここに実は牧野富太郎博士の蔵書が「牧野文庫」として、今日引き継がれています。「牧野文庫」に已前窺って、その膨大な書庫の資料を実際に見せていただいた記憶がくつきりと今も甦ってきます。

この「高知県立牧野植物園」のホームページ <http://www.makino.or.jp/index.html> にまず、ご案内します。そして、牧野富太郎博士の系譜 http://www.makino.or.jp/dr_makino.html を見ていきましょう。 [植物画](#)

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/tokuten/2001makino/mokamoto.html>

練馬区立牧野記念庭園、東京学芸大学「牧野標本館所蔵タイプ標本データベース」

http://ameba.i.hosei.ac.jp/BIDP/MakinoCD/makino/html_j/index0.html

次に、「[牧野文庫](#)」

<http://www.makino.or.jp/gaiyo04.html>

に保管されている蔵書について、眺めてみます。

一 植物研究とその書物

① 外国人による日本植物の研究

江戸時代に日本の植物を分類学的に研究した人々は、鎖国下に外国から日本にやってきた博物学者たちであった。ケンペル、ツウンベリー、シーボルトらいずれもオランダ商館の医師たちである。ドイツ人のケンペルは、元禄三（一六九〇）年来日し、二年間滞在して帰国後精密な銅版図入りで日本の植物を紹介した『[廻国奇観](#)』を出版した。リンネの高弟ツウンベリーは安永四（一七七五）年来日、翌年にかけて滞在しその研究成果を『日本植物誌』として著した。文政六（一八二二）年日本に来たシーボルトは、医学、動植物学などの分野で我が国に新たな西洋の学術情報をもたらし、自らも大量の文物や植物を携えて文政十二（一八二九）年帰国した。大著『日本植物誌』は図譜の白眉としても知られる。幕末には東アジア植物の権威ロシアのマキシモヴィッチやフランス人のサヴァチエらが日本を訪れ、植物を研究しその成果を著述に残している。

A ケンペル/[廻国奇観](#) *Amoenitatum Exoticarum*. E. Kaempfer 著 一七二一レムゴール刊

B ツウンベリー/[日本植物誌](#) *Flora Japonica* C. P. Thunberg 著 一七八四ライプチヒ刊

C シーボルト&ツツカリーニ/[日本植物誌](#) *Flora Japonica*. P. F. von Siebold J. G.

Zuccarini 共著 植物文献刊行会 一九三二東京刊
D フランシエ&サヴァチエ/日本植物目録 Enumeratio Plantarum in Japonia sponte
crescentium. 2vols. A. Franchet L. Savatier 共著 一八七五-七九。パリ刊

E マキシモヴィツチ(アジアの新植物記載 Diagnoses plantarum Asiaticarum I-VII.C. J.
Maximowicz 著 一八七六・一八八八

②江戸の植物学

牧野蔵書にはやはり植物関係の版本が多い。それも、収書の主富太郎の嗜好によって徹底的に諸版が集められている。『大倭本草』は12部、『本草綱目啓蒙』は初版、再版、重修(木活字)、重訂が揃い13部、『植学啓原』は12部の版本がある。諸版の移りゆきが示す現象から、学問のありかたすら浮き上がって見えてくる。江戸期の植物学は、初めて邦産の植物を意識して記録した貝原益軒の『大倭本草』から、小野蘭山の『本草綱目啓蒙』の膨大な検証を経て、『植学啓原』など西洋の影響を受けた著作が刊行されてゆく。牧野富太郎ら近代植物学はこれら江戸期の遺産の上に始まった。

A 大倭本草 Yamato-honzo. 貝原益軒著一六卷 序目一卷 附録二卷諸品図 上中下大22冊・宝永六(一七〇九) 付録・図刊・正徳五(一七一五) 刊 京都永田調兵衛

B 重訂本草綱目啓蒙 Jutei-Honzo-komoku-keino. 48巻 中20冊 小野蘭山口授・小野職孝録

井口樂三訂 弘化四(一八四七) 刊 大坂岸和田 邸学白鶴園版(「岸藩文庫」印アリ)
C 植学啓原 Shokugaku-keigen-yakubun 三巻 図(彩色)一卷 大一冊宇田川榕菴著 天保

五(一八三四) 刊、宇田川氏菩薩樓版

D 物品識名 Buppín-shikimeí 一卷 拾遺一卷 大一冊(薄葉) 水谷豊文著

E 物品識名 Buppín-shikimeí 水谷豊文著 小一冊 文化六(一八〇九) 刊 欠拾遺一卷
名古屋永楽屋東四郎

③草木図説

牧野文庫には飯沼慾齋の『草木図説』に関連する資料が種々存在する。富太郎が明治40(1907)年草部の増訂版を出したため、その頃集まったと考えられる。木部稿本は、いったん官に納められたものが下付され一時田中芳男の手にあったものである。富太郎が増訂版に取りかかった時田中から譲られた。草部は端本を含め四部を所蔵し、慾齋自筆の訂正文を貼付した版もある。また慾齋の遺品や彩色植物図、版下なども所蔵される。

A 草木図説草部 Somoku-zusetsu sobu 前篇20巻 大20冊 一部 彩色 飯沼慾齋著・画
安政三(一八五六)・文久元(一八六一)・文久二(一八六二) 刊

B 草木図説木部(稿本) Somoku-zusetsu mokubu kohon.
飯沼慾齋著・画(自筆) 10巻 大9冊(巻1欠)

C リンネ氏手稿訳 Linnaeus-shi-shuko yaku 飯沼慾齋訳(自筆)

D 新訂草木図説 Shintei-somoku-zusetsu 飯沼慾齋著 田中芳男・小野職愨増訂 明治八(一八七五) 刊 20巻(存巻1〜10) 大10冊 大垣 平林荘飯沼龍夫版

E 増訂草木図説草部 Shintei-somoku-zusetsu 故飯沼慾齋著述 牧野富太郎再訂増訂1〜4輯
4冊 明治四〇(一九〇七)〜大正二(一九一三) 成美堂刊

④ 明治時代の植物学書

明治初年から相次いで出版された植物学の啓蒙書は、牧野富太郎の蔵書の出発点ともいえる。自刻の蔵書印を押し、書き入れするなどした手沢本が多数見出される。それは、後年丹念に追加購入したものを加えると、黎明期の植物学史を辿る貴重なコレクションとなっている。

A 植物学 *shokubutsugaku* リンドレー原著 韋廉臣(ウィリアムソン)編訳艾約瑟(エドキンス) 続訳清 李善蘭筆述清咸豊8(一八五八) 序刊 墨海書館

B 日本植物図説 *Nihon-shokubutsu-zusetsu*

伊藤圭介著 伊藤謙編 服部雪斎画初編草部イ 大一冊明治七(一八七四) 刊 伊藤氏花

繞書屋蔵梓

C 草木乾腊法 *somoku-kansekiho* 伊藤圭介著 久保弘道校

服部雪斎画 38.2×53.2cm 明治八(一八七五) 刊

D 埵甘度爾列氏植物自然分科表

de Candolle-shi-shokubutsu-shizen-bunkahyo

一枚物 50.0×152.7cm 田中芳男訳 明治五(一八七二) 文部省 博物局刊

E 植学訳筈 *Shokugaku-yakusen* 小野職懋訳 明治七(一八七四) 文部省刊 ※日本初の英・羅

・日植物学用語対訳辞書。

F 植学略解 *Shokugaku-ryakuge* 伊藤謙著 明治七(一八七四)

文部省

G 小石川植物園草木目錄 *Catalogue of Plants in Koishikawa Botanical Garden* 明治一〇(一八七

七) 東京大学理学部印行

二 博覧の世界 知の広がり

若き日の牧野富太郎は、勉学の心得に「書籍の博覧を要す」という一節を設けた。そのことを、生涯学問のスタイルとした結果、彼の頭脳には夥しい知識が宿り、その蔵書は驚くほど多様で幅広いジャンルにわたっている。万巻の書物を博搜して、植物の考証や名彙を論考した晩年は特に、「最後の本草学者」と呼ばれ、「書斎の人」の印象が強い。

① 地誌・紀行 [Geography and Travel]

江戸時代には、さまざまな絵入りの名所案内記の類が刊行されて庶民に人気を博した。牧野文庫には北は蝦夷から南は琉球まで全国各地の地誌紀行が集められている。名所図会の嚆矢といわれる秋里離島編著『都名所図会』(一七八〇刊)を始め、明治初期にかけて刊行された版を網羅した特筆すべきコレクションである。神社仏閣、景勝地を描いた挿図の中には、名樹老木や植物相、生態をうかがう図も見られる。全国を採集に歩いた富太郎にとって、過去をしのぶ古い図会の挿図は関心を呼ぶものであったろう。

A 夕張日誌 (*Yubari-nisshi*) 絵入り一部彩色 大一冊

松浦竹四郎著 万延元(一八六〇) 凡例刊 多気志楼蔵版

B 北越雪譜 (*Hokuetsumu-seppu*) 初編巻上下、二編巻一〜四 大七冊 鈴木牧之著 岩瀬京水画 初編天保七(一八三六) 刊 二編 天保一三(一八四二) 刊 江戸文溪堂丁字屋

平兵衛等

- C 大江戸図説集覽 (Oedo-zusetsu-shuran) (扉・御江戸図説集覽) 彩色 大一冊 橋本玉蘭
 斎著 山崎美成輯説 嘉永六(一八五三)刊 江戸 栄久堂山本平吉
- D 大日本土佐国漁師漂流記 (dainippon-tosakoku-ryoshi-hyoryuki) 彩色図入り 小一冊
 鈍通子著 滄浪軒藏版
- E 環海異聞 (Kankai-ibun) 彩色図入 一五巻首一巻 中五冊
 大槻玄沢著 弘化三(一八四六)写

②文学書 Literary works

若き日の牧野富太郎は、勉学の心得に「書籍の博覧を要す」という一節を設けた。そのことを、生涯学問のスタイルとした結果、彼の頭脳には夥しい知識が宿り、その蔵書は驚くほど多様で幅広いジャンルにわたっている。万巻の書物を博搜して、植物の考証や名彙を論考した晩年は特に、「最後の本草学者」と呼ばれ、「書斎の人」の印象が強い。

- A 古事記伝 Kojiki-den 44巻 大44冊 本居宣長著
 文政5(1822)刊 名古屋 東壁堂片野東四郎等
- B 万葉集古義 Manyoshu-kogi 20巻 古義総論4巻 枕詞解5巻 玉蜻考1巻 品物解4巻
 人物伝3巻 名処考6巻 名処国分・座知佳境付録各1巻 中30冊 鹿持雅澄著 明治三一(一八九八)刊 活版 宮内省原本 東京 吉川半七
- C 土佐日記地理弁 Tosa-nikki-chriben 付地図(彩色) 大1冊 鹿持雅澄著 文久三(一八六三)刊 大坂 河内屋吉兵衛等
- D おあむ物語 Oan-monogatari 於幾久物語と合冊 絵入1巻

大一冊 作者不詳

- E 東海道中膝栗毛 Tokaidochu-hizakurige 初編 後編 三編〜八編 発端 小18冊 十返舎一九著 享和二(一八〇二)序刊〜文化一一(一八一四)序刊 江戸甘泉堂和泉屋市兵衛 大坂河内屋太助
- F 風流志道軒伝 Fuyu-shidoken-den 絵入 五巻 中五冊
 風来山人(平賀源内)著 宝暦一三(一七六三)序刊
 江戸 南総館上総屋利兵衛
- G 通俗伊蘇普物語 Tsuzoku-isoppu-monogatari 六巻 中六冊 渡部温訳 明治六(一八七三)序刊 東京渡部氏蔵梓

③江戸の文化をしのぶ The Cultural legacy of Edo

牧野文庫の和書は江戸期の刊本が多い。ごく普通の庶民が手にしていた雑書の類からは、江戸の人々の暮らしや風俗や趣味嗜好が自然に漂っている。高い識字率からさまざまな実用書や娯楽本が登場し、江戸の出版文化は豊かであった。普通書の宝庫であることが、牧野蔵書の特徴であり魅力でもある。

④本草書 Herbal works

人間にとって、健康の保持や病気の治療は最も切実な問題である。薬をもつばら天産物に仰いでいた時代、薬草の研究は大変盛んであった。その学問を本草学といい、これが植物学の淵源である。牧野文庫の和漢の本草書は、充実したコレクションとして世界的にも評価が高い。中でも明の李時珍の『本草綱目』は、唐本から和刻本まで23部に及び国内第一の量である。これらの中には我が国初の和刻本や、貝原益軒校注の貝原本、稻生若水が注釈した若水本など貴

重な版がある。飢饉の際食用に用いる救荒本草や、健康維持のための食物本草などの分野も多くの種類が揃っている。

⑤ 新しい知 洋学・蘭学 Dutch Learning, Western Learning

⑥ 聖書の数々 Holy Scriptures

青年牧野富太郎は、植物学に志を立てて十五の戒を「赭鞭一撻」に書き留めた。その最後の戒めに「造物主アルヲ信スル母レ」がある。儒教的合理精神にみちた窮理の説を主張して曰く、

造物主アルヲ信スルノ徒ハ真理ノ有ル所ヲ窺フ能ハサルモノアリ是レ其理ヲ顯レサルモノアレバ其理タル不可思議ナルモノトシ皆之ヲ神明作為ノ説ニ附会シテ敢テ其理ヲ討セサルバナリ故ニ物ノ用ヲ弁スルコトハ外ニ明ナリト雖トモ心常ニ壅塞丕閉シテ理内ニ暗シ如此ノ徒ハ我植物学ノ域内ニ在テ大ニ恥ツベキ者ナラズヤ是レ之ヲ強求スレバ必ず得ルコト有ルモ我ノ理ニ通ゼザル処アレバ皆之ヲ神明ノ秘蘊ニ託シテ我ノ不明不通を覆掩修飾スレバナリ

と。そのような富太郎が実に多数の聖書を収集したことは矛盾しているようにみえるかもしれない。これも博学を宗とする儒教的な教育思想の結果と考えれば、納得がいく。

⑦ 辞書の系譜 A Cornucopia of Lexicons

書物にあらわれた動植物名などを、実物（モノ）と照らし合わせて考証する学問を名物学という。詩経の注釈から興り中国で盛んであった。

この学問が日本に伝わって辞書の源となった。牧野文庫には、中国字書を代表する『説文解字』と『爾雅』をはじめ、日本最古の国語辞書として知られる『倭名類聚鈔』など平安から

江戸期にかけての古字書がよく揃っている。

また、類書や『倭漢三才図会』などの百科事典、語源、俚諺俗語、仮名遣いと実に幅広い。

これらは、牧野富太郎がとりわけ植物の名前に関心を持ち、各時代の辞書事典を揃えたためである。しかし最も注目されるのは、幕末から明治初期にかけて刊行された初期の英語辞書群である。

A 説文解字 (Setsumon-kaji) 15篇 汲古閣説文訂1巻 六書音韻表5 中24冊 漢許慎著

清段玉裁注 清乾隆42(一七七七)序刊

中国を代表する字書。漢の許慎が九三五〇字について字形から説いたもので、文字の構成を象形・指示・形声・会意・転注・仮借の六書によって説明する。本書は清の段玉裁の注。明末の蔵書家で汲古閣という図書館を擁し、名著の復刻出版を行った毛晋が出した汲古閣本。

B 新撰大日本永代節用無盡蔵 堀原甫子編 天保二(一八三一)刊

京都 勝村治右衛門等

節用とは用を節する、即ち便利な辞書のこと、原本は室町時代に成立した。大衆に利用されて発展し実用百科事典を兼ねる。本書は、いろは別に分かれ、次に部門別に語釈がある。嘉永二(一八四九)年の再刻だが、彩色刷で大部、図版も美しい。

C 英和对訳袖珍辞書 (Shinsen-nihon-eitai-mujinzo) 初版 文久二(一八六二)「洋書調所」

日本最初の活字本英和辞典。阿蘭陀通詞出身の幕府洋書調所教官、堀達之助が編纂主任を命ぜられ、ピカード『ポケット英蘭・蘭英辞典』(一八五七)の英蘭の部を底本に、主として蘭和辞典『和蘭字彙』の訳語を採用して編纂したもの。英語は鉛活字と印刷機による活版、訳語は木版の整版による。本文に洋紙を

使用。二〇〇部限定出版といわれる。牧野文庫本は鼠による破損が甚だしい。

D 改正増補英和对訳袖珍辞書 堀達之助編・堀越亀之助補

慶応二（一八六六） 開成所

初版売り切れのため、初版同様、英語を活版、訳語を木版で印刷。ただし、本文に鳥の子紙を使用。遊紙に「此書、普通にある木版英語のものと異にして活版の英語なり、蓋し木版に彫刻する前に印刷せしものならんと信ず 牧野富太郎 記」との書き入れがある。「普通にある木版英語のもの」とは和紙袋綴じの慶応三年版を指す。牧野文庫所蔵慶応三年版の一つには「明治の初年之れを枕辞書と呼んでゐた 牧野富太郎記」との書き入れがある。

E 大正増補和訳英辞林 日本薩摩学生 前田正毅・高橋良昭編 明治四（一八七一） 上海美

華書館 An English-Japanese Pronouncing Dictionary. Fourth Edition Revised. Shanghai,

American Presbyterian Mission Press, 一八七一.

編者の序文によれば、堀孝之（堀達之助の息子）らとともに「訳語欠漏ヲ改正編集シ」、ウェブスター辞典から「緊要ナル者凡ソ八千余語ヲ拔翠」したという。英語にはカタカナに代えて、ウェブスター式の「音符」と「字綴」記号を付ける。『英和对訳袖珍辞書』から数えて第4版となる。

F 英和对訳辞書 開拓使 明治五（一八七二） 東京 小林新兵衛

『大正増補和訳英辞林』の模刻版。木版和装本。

出版の趣旨は編者の序文（明治5年7月）に「方今皇政隆興シ百度緒ニ就ク朝廷黒田清隆ヲシテ北地ノ事務ヲ管セシム是ニ於テ清隆判官等ト胥ヒ議シ將ニ学校ヲ札幌府ニ建テ専ラ人才ヲ育シ百工ヲ勸メントス乃此書ヲ刻シテ以テ生徒ニ授クト云フ」とあるに明らかである。編者の荒井郁（郁之助）は当時、札幌の農学校設立に向けて明治5年4月に東京芝の増上寺内に設置された開拓使仮学校の校長であった。

G 蝦和英三対辞書 J. Batchelor 編 明治二二（一八八九） 北海道庁蔵板 An

Ainu-English-Japanese Dictionary, And Grammar. By The Rev. John Batchelor. Church Missionary Society. Hakodate. Printed For The Hokkaido Cho By Y. Kumata. Tokyo. 1889.

編者バチェラーは一八七七年に来日し、一八八二年よりイギリス聖公会のアイヌ宣教師としてアイヌ研究とアイヌ伝道に従事。本書の序文は北海道庁長官永山武四郎、印刷者は熊田宣遜。

三 植物図譜の世界

牧野富太郎は、植物分類学者であるとともに第一級の植物画家でもあった。画技の修練のため、あるいは研究に必要として集められた植物図譜には多くの名品がそろっている。

① 愛蔵の和蘭植物学書 Favorite Dutch Botanical Studies

四万五千冊の蔵書を擁した牧野富太郎が、とりわけ愛した書物があった。江戸時代にオランダから舶載された古渡りの書物、ハウトウインや、オスカンプ、そしてシーボルトが日本から持ち帰り西洋に根付いた植物を載せた園芸雑誌など、いずれもオランダの植物学書である。かつて牧野富太郎が創刊した『植物研究雑誌』は、昭和24年富太郎の米寿を祝って記念号を出した。この中に「牧野博士一夕話」として富太郎から聞き取りした植物学に関する四方山の談話を載せている。愛蔵書の話はその一話である。

晩年の牧野富太郎 富太郎が愛蔵したオランダ植物学書

我が愛蔵の和蘭植物学書

古い和蘭の植物学書にシーボルト等の手によって輸出された日本の植物の記事が載っていたりするのは大変懐かしいものだ。

この様な書物の中で下記のもの等は嬉んで所蔵している。Annalest' Horticulture et de Botanique. 5 vols., W. H. de Vriese : Tuinbouw-Flora 2 vols., C. A. J. A. Oudemans : Neerland's Plantentuin 3 vols. また F. Houttuyn : Natuurlyke Historie 20 vols. (原文のママ) このホッタインの書は曾て田中芳男先生から全部貰っていた。それは書中の画に特に手彩色が施してあった。もと徳川時代の駿府の学校に在ったものだと言われる。

ひとと年田中芳男先生の七八記念展覧会のあった時、十冊だけを私が出品したが、其の後田中家から東大の図書部に先生の図書が寄贈された時、一緒に行ってしまつて、今手元には残りの十冊しかない。この他、愛蔵のものとしては、Oskamp の *Abbeildingen der Aryseny-Gewassen* がある。今一〇 Etinghausen und Pokorny の *Physiotyphia Plantarum Austricarum* 10 vols. がある。この書は竹中要博士から譲つて貰つたもので、日本には四部か五部位しかなく、大抵前半の5冊しかないのであるが、拙宅のものは十冊(全部)揃いで大いに自慢すべきものである。書物で植物を頭わす技術は実に特色のあるもので、Etinghausen 博士も羊歯などの書物には皆この技術が用いてある。東北大学の木村有香博士もこの技術の書物を大分集めておられた。〔牧野先生「一夕話」より「植物研究雑誌」第24巻第1〜12号 昭和24所載〕

② 海外の植物図譜 Western Illustrated Botanical Books

図は文章よりも植物の形の真を伝える。植物学、特に植物分類学にあつては、図は重要な役割を果たした。遠く離れた国々に存在する種をイメージするには欠かせないものである。牧野富太郎はまた自ら植物画を描いた。このため図描の写本とした植物画もある。これらは、植物学者と画家と両面を備えた富太郎の目になつた植物図譜の一端である。

③ 日本の諸仏図譜 Japanese Illustrated Botanical Books

日本の植物画の歴史は、中世の『馬医絵巻』から始まるという。薬用という使命を帯びた植物は、まず何より正しい同定を必要とした。同定を誤れば薬効がなく、毒草を用いれば生命を危うくする。見分けのために描かれた図はしだいに正確、詳細となつた。一方元禄の頃より園芸趣味が興隆し、植物の美しさや珍奇さが人々をとらえた。そして江戸の後期に新たな西洋の知が伝わると、植物そのものの姿を解き明かすために、観察と写実を重んじる博物画のジャンルが誕生する。

A 本草図譜 Honzo-zufu

B 花彙 Kai

C 草木花実写真図譜 Somoku-kajitsu-shashin-zufu

D 絵本野山草 Ehon-noyama-gusa

E 増補地錦抄 Zoho-chikin-sho

F 草木錦葉集 Somoku-kin-yo-shu

G 草木雑品録 Somoku-zappin-roku

・ 亜墨利加草類画 (稿本) Amerika-sorui-ga

H 有用植物図説 Yuyo-shokubutsu-zusetsu



四 牧野富太郎の著書

① 『植物知識』 講談社学術文庫

○ そしてそのミカンは、その毛の中の汁を味わっている、と聞かされるとみな驚いてしま
うだろうが、実際はそうであるからおもしろい。

○ ヘビイチゴとは野原で蛇の食う莓の意だ。

② 『日本植物志図篇』

増補 植物名彙
改訂 松村任三編著
東京 五友社

③ 『植物一日一題』 ちくま学芸文庫



Makino Memorial Garden & Museum

企画展
まきのとみたろう
牧野富太郎が夢みた
まんしょうせかい
万葉の世界

妹がたの
茶の実摘みに
行きし我
山道に迷ひ
この日暮らしつ

あかねさす
紫野行き
標野行き
野守は見ずや
君が袖振る

2011(平成23)年
6月4日(土)~8月7日(日)

練馬区立 **牧野記念庭園記念館**

2012年
牧野富太郎
生誕 150周年

開園時間 午前9時から午後5時(ただし、企画展は午前9時30分から午後4時30分まで)
休 園 日 毎週火曜日(火曜日が祝日の場合は開園し、その直後の休日はではない日を休園) 年末年始
所 在 地 東京都練馬区東大塚6-34-4
TEL 03-6904-6403 FAX 03-6904-6404 E-mail makinoteien@mistocn.ne.jp

牧野記念庭園は
文化庁登録記念物
(遺跡および名勝地)です

入場
無料